空調システム設計 Air-conditioning System Design

tu = 0	10 4 10 4	L (- 1 %	- / ₁	-» ·					
教員名	相良和伸(さがら かずのぶ)								
教員連絡先	吹田キャンパス S 1 棟 8 階 8 2 6 室								
(研究室所在地・TEL)	電話: 06-6879-7643								
E-MAIL アドレス	sagara@arch.eng.osaka-u.ac.jp								
履修対象	建築工学コース(3年次)								
単位	1 セメスター 6								
受講条件	建築設備学第一部を履修していることが望ましい。								
授業の教育目的・目標	各自が建築設計したオフィスビルを対象として、実際的な設計法により空調								
他科目との関連	システムの設計を行い、空調システム設計の基本的な流れを体得する。								
	本授業科目は、建築設備に関する知識を基礎にして、空調システムに関する								
	実務的および専門的な知識を活用する能力を身に付けるためのもの							ある。	
学習・教育目標	Α	В	С	D	Е	F	G	Н	
授業計画・概要 テーマ		-マ	概要					学習·教	
								育目標	
	オフィスビルの 設計と年間熱負 荷係数の算定		建築に関係する省エネ法の概要を学習し、各自					F	
			が設計したオフィスビルについて、拡張デグリー						
	何係数の (4回)	异化	デー法による年間熱負荷係数の算定を行う。(高						
			度4回)						
	冷暖房負荷計算 (3回) 空調吹出風量の 算定(2回)		空調システムの必要能力決定のために、オフィ					F	
			スビル基準階について冷房負荷および暖房負荷						
			の算定を行う。(高度3回)						
			湿り空気線図を用いて空調プロセスにおける					F	
			 空気の状態変化を体得すると共に、空調吹出風量						
			の算定を行う。(高度2回)						
					,				
	ダクト設計		汝里伯[図玄田117	- ガカトの	麻熔铝件	レガカト		
	(3回)		流量線図を用いてダクトの摩擦損失とダクト サイズの算定を行うと共に、局部抵抗の算定を行					F	
			リイスの昇足を打つと共に、局部抵抗の昇足を打 い、必要ファン全圧およびダクトスペースへの配						
			「「「「「「」」」」						
			国で水足り	りる。(同点	支3四)				
	空調機器選定 (2回)		劫酒	▽≐田松かり	の仕せたこ	h ;	四サノブ	F	
			熱源、空調機などの仕様を決定し、機器サイズの概略値を算定することにより機械室への空調					F	
			機器の配置を決定する。(高度2回)						
			1筬品の配置	■で状正り	る。(同及	.∠凹)			
教科書									
	空気調和・衛生工学会編「空気調和衛生工学会便覧」、 丸善								
参考図書・文献等		- エバ師和 領主エチ云編 ・ エバ師和領主エチ云使見よ 八音 - Fについて提出レポートで評価する。総点で 60 点以上を合格とする。							
成績評価方法・評価基準		随時 e-mail にて対応							
オフィスアワー									
コメント	授業アンケートなどの結果により授業方法などを継続的に改善する。								